

学校及び関係機関と連携し、対人恐怖を背景にした不登校に対応したケース

1 気になる状況（SSW派遣のきっかけなど）

- 生徒Aは、中学校に入学した際、小学校と比較し、学級の生徒数が増えたことから、他者への抵抗感及び恐怖感が強まり、中学校第1学年の秋頃から、不登校となった。
- 母親は、自身の不安や生徒Aへの支援の方法について、SSW、養護教諭及び医師に相談していたが、これまで、ケース会議は行われていなかった。

2 ケース会議後のアセスメント（見立て）とプランニング

教育委員会及びSSWが主体となって実施したケース会議において、次の基本情報などから、プランニングが行われた。

(1) 基本情報など

- 生徒Aの両親は離婚しており、生徒Aは、母方の祖父母、母親及び兄と同居している。
- 両親の離婚後、生徒Aは、月に一回、父親と面会していたが、徐々に面会の機会が減り、精神的に不安定になった。
- 母親は、家庭で、生徒Aの気持ちに寄り添った対応をしている。

(2) アセスメント及びプランニング

- SSWは、学校及び医療機関と情報共有し、組織的な支援体制を構築する。
- SSWは、生徒Aの自己肯定感を高めるため、目標設定の支援及び振り返りを行う。
- 学校は、生徒Aが安心して登校できるよう、対応する教職員や学習内容を調整する。
- 医療機関は、生徒A及び母親のカウンセリングや相談支援を実施する。

3 支援の状況（関係者や関係機関とその役割分担）

【SSW】

- 生徒A及び母親の家庭での生活状況や不安な思いについて、学校や医療機関と情報共有する。
- 生徒Aの登校に向けた、スモールステップによる目標設定の支援及び振り返りを実施する。

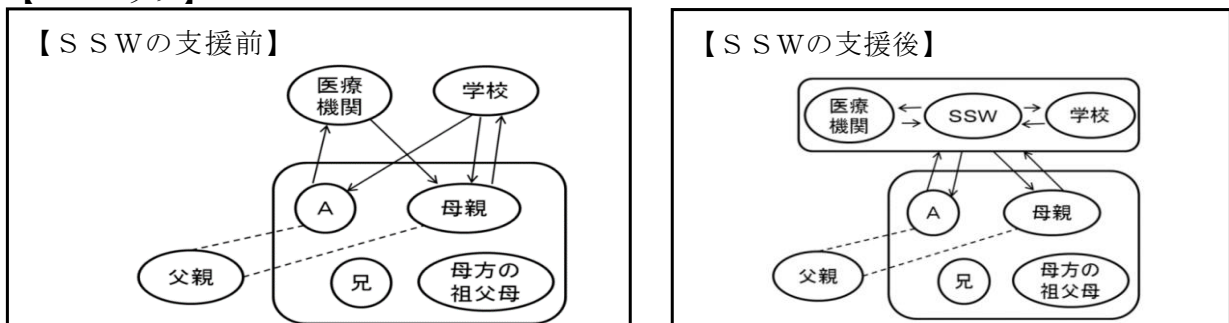
【学校】

- 生徒Aが別室登校した際、生徒Aと関わりの深い教職員による学習指導や教育相談を実施する。

【医療機関】

- 担当医師による、SSWや学校と共有した情報に基づく、生徒A及び母親への定期的なカウンセリングや相談支援を実施する。

【エコマップ】



3 支援後の状況（改善が見られたこと、成果など）

- SSWが、学校及び医療機関と連携し、生徒A及び母親の家庭での生活状況や不安な思いを共有したことにより、生徒A及び母親への組織的な支援ができるようになった。
- SSWが、生徒Aと登校に向けた目標設定及び振り返りを行ったことにより、生徒Aの自己肯定感が高まり、高校進学を視野に入れた長期的な目標を設定することができるようになった。
- 学校は、生徒Aが別室登校した際、対応する教職員や学習内容を調整したことにより、生徒Aの学校での学習時間が長くとともに、生徒Aに関わる教職員が増えるなど、生徒Aが、学校で安心して生活することができるようになった。
- 医療機関が、生徒A及び母親の不安な思いに対し、SSWや学校と共有した情報に基づいて、定期的なカウンセリングを行ったことにより、生徒A及び母親が、精神的に安定して生活できるようになった。

不登校生徒に係る家庭支援に取り組んだケース

1 気になる状況（SSW派遣のきっかけなど）

- 生徒Aは中学校第1学年時に不登校となる。
- 保護者は、生徒Aの兄（成人）からの金銭的要求等のストレスにより、心療内科に通院している。
- 家庭環境の改善に向け、関係機関による総合的な支援を行うため、SSWを活用した。

2 ケース会議後のアセスメント（見立て）とプランニング

子育て支援課が主体となって実施されたケース会議において、次の基本情報などからプランニングが行われた。

(1) 基本情報など

- 生徒Aはひとり親家庭であり、町内に祖父母が居住している。
- 保護者は休職中である。
- 生徒Aの兄は町外に居住しており、社会的自立に向けた支援を要する。
- 生徒Aの進学について、保護者と生徒Aの考えが一致していない。

(2) アセスメント及びプランニング

- 学校が中心となり、教育委員会やSCの援助の下、生徒Aの登校や進学相談等の経過を把握する。
- 子育て支援課による家庭の様子の把握や、町外支援施設等による福祉サービスの提供を行う。

3 支援の状況（関係者や関係機関とその役割分担）

【学校】

- SCによる、保護者との面談を実施し、保護者の困り感を聞き取るとともに、情報整理を行う。

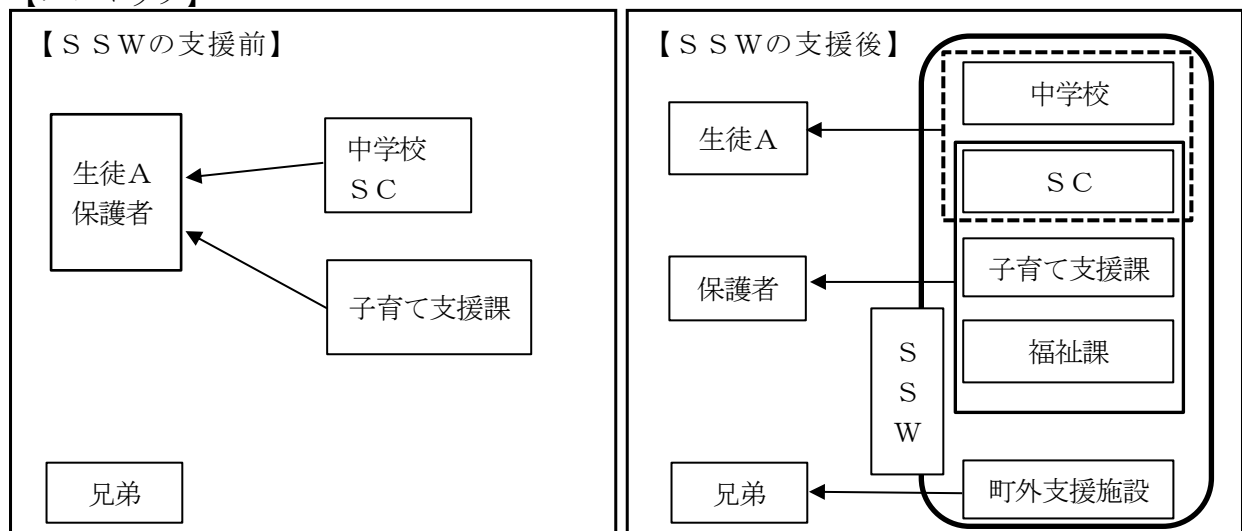
【子育て支援課】

- 福祉面からの支援方法等について、関係機関に情報提供を行う。
- 保護者との面談等を行い、家庭の様子を把握するとともに、保護者に福祉面からの支援を提案する。

【町外支援施設】

- 保護者の兄に福祉サービスの利用等を促す。

【エコマップ】



3 支援後の状況（改善が見られたこと、成果など）

- 関係機関による総合的な支援体制を構築したことにより、多面的に家庭環境を把握し、支援につなげることができた。
- 家庭環境の改善に向けた取組を行うことにより、生徒Aは登校できるようになった。

ヤングケアラー解消に向けた家庭支援のケース

1 気になる状況（SSW派遣のきっかけなど）

- 学校は、学級担任と生徒Aとの教育相談において、生徒Aが家事全般や祖父の日常生活の支援を行っていることを把握した。
- 学校は、教頭及び学級担任による家庭訪問により、祖父が歩行など身体の状態に不安を抱えていることや台所など自宅の状況等から、家庭環境に問題があることを把握した。
- 生徒A宅の近くに住む叔母が、生徒Aの提出物や諸費納入等の手続きや進路相談等に対応している。

2 ケース会議後のアセスメント（見立て）とプランニング

SSWが主体となって実施されたケース会議において、次の基本情報などからプランニングが行われた。

(1) 基本情報など

- 前年度、病氣療養中だった生徒Aの母親が亡くなり、生徒Aは、70代の祖父との二人暮らしである。家庭の収入は祖父の年金のみである。
- 生徒Aは、炊事、洗濯、掃除、買い物、除雪等の家事全般及び祖父の日常生活の支援を行っている。
- 生徒Aの祖父は、飲酒量が多く、食事をあまり摂っていないことから、定期的に病院を受診しており、健康状態に不安があるが、祖父は、他者が家庭に介入することを拒絶している。
- 生徒Aの叔母は、生徒Aの就学及び進学について協力的であるが、祖父との関係が悪く家庭生活の支援を十分には行えていない様子である。
- 生徒Aは、2年前から家事全般を担っているため、ヤングケアラーの認識がない。

(2) アセスメント及びプランニング

- 生徒Aの祖父が家庭及び自身への支援を拒絶していることや、生徒A自身がヤングケアラーの認識をしていないことが課題である。
- SSWは、生徒Aの学校生活に支障をきたさないよう、関係機関と連携し、積極的に社会資源活用することについて、働きかける。

3 支援の状況（関係者や関係機関とその役割分担）

【中学校】

- 定期的に祖父と面談を実施することで、信頼関係を築くとともに、生徒Aの就学及び進学への考えや家庭の要望、困り感を丁寧に聞き取る。
- 生徒Aの叔母との連携を継続し、生徒Aの就学及び進学の協力を得る。

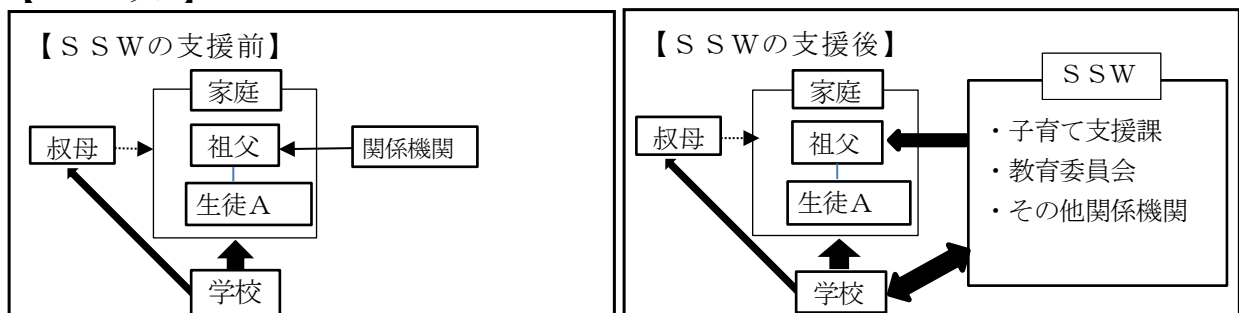
【子育て支援課】

- 関係機関の相談員と連携し、生徒Aへの養育支援の活用を勧める。

【SSW】

- 関係機関による支援会議において情報提供するとともに、助言や支援を行う。

【エコマップ】



4 支援後の状況（改善が見られたこと、成果など）

- 生徒Aのヤングケアラーの実態を踏まえて、関係機関の相談員が祖父と定期的に面談したことにより、祖父の態度が軟化し、相談員の話に耳を傾けるようになった。

関係機関と連携し、家庭支援をしているケース

1 気になる状況（SSW派遣のきっかけなど）

- 父親、母親、生徒A、児童Bの4人家族で、母親は精神疾患を患っており、言動が攻撃的になることがある。生徒Aに対しても暴言を吐くことがあり、児童相談所が介入した。
- 生徒Aには発達障がいがあり、自分のしたいことを優先する傾向が見られるため、母親は対応に苦慮している。

2 ケース会議後のアセスメント（見立て）とプランニング

SSWの要請で要対協のケース検討会議が実施された。

(1) 基本情報など

- 母親は、生徒Aの発達の遅れを心配し、療育機関や医療機関を受診するとともに、児童相談所における発達相談も受けている。

(2) アセスメント及びプランニング

- 母親は、生徒Aへの適切な関わり方について、多くの相談機関に相談しているが、改善しなかった。
- 父親は、生徒Aの特性について理解を示しているが、児童Bは、生徒Aに対し、否定的な感情をもっている様子が見られる。
- 母親と生徒Aは自己肯定感が低いことから、肯定的な声かけを通してできることを増やし、自己肯定感を高めていく。

3 支援の状況（関係者や関係機関とその役割分担）

【中学校、教育支援センター】

- 学習指導を通して、生徒Aに必要な力を付けていく。母親には生徒Aの取組を伝えていく。

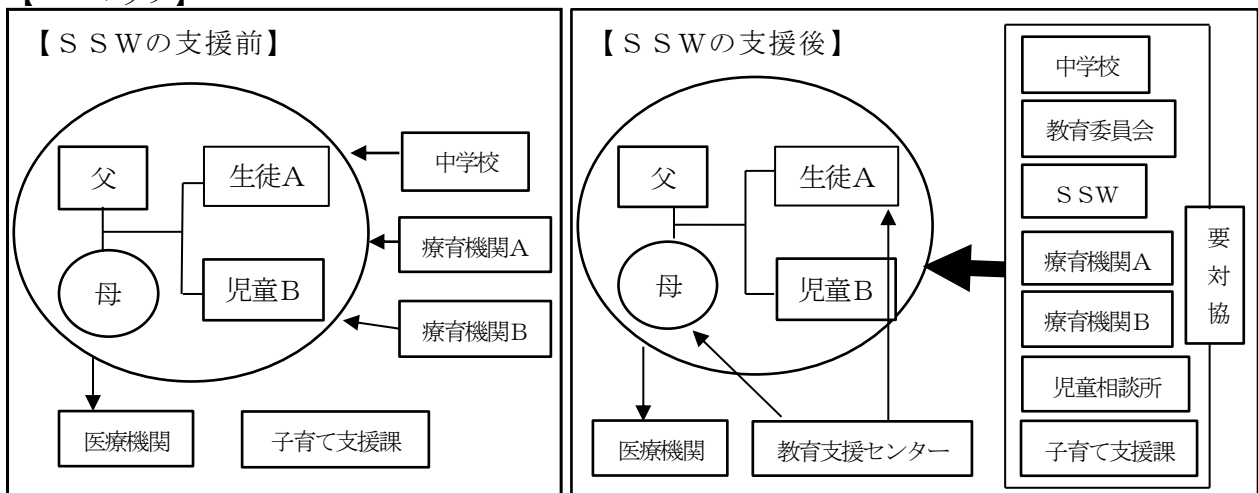
【療育機関】

- 療育機関を生徒Aの家庭・学校以外の居場所の一つとし、自立を促す活動を行う。また、母親の気持ちを聞く機会を意図的に設定する。

【SSW】

- 生徒A及び母親と定期的に面談することを通して、家庭状況の把握や家庭生活の充実を図る。
- 各関係機関と情報共有を図り、連絡・調整を行う。

【エコマップ】



4 支援後の状況（改善が見られたこと、成果など）

- 母親と生徒Aに対し、関係機関との連携を図ることによって、改善していくべき課題や、2人のもっているよさについて共通理解を図ることができた。
- 生徒Aが、教育支援センターに通うことができるようになったことから、学校以外の居場所ができ、精神的な安定が見られるようになった。

アセスメントにより関係機関とつなぎ、支援体制を整えたケース

1 気になる状況（SSW派遣のきっかけなど）

- 生徒Aは自傷行為を繰り返していたが、保護者が医療機関に対して不信感を抱いているため、生徒Aは医療機関を受診していない。
- 生徒Aは、夏頃から欠席が増え始めた。

2 ケース会議後のアセスメント（見立て）とプランニング

中学校が主体となって実施されたケース会議において、次の基本情報などからプランニングが行われた。

(1) 基本情報など

- 父親、母親、生徒A及び生徒Bの4人家族であり、生徒Bは心療内科の受診歴がある。
- 生徒Aは、情緒不安定で自己肯定感が低く、気分や表情の移り変わりが激しい。
- 父親が生徒Aの身体に触れた際に、生徒Aが苦痛を感じることもある。

(2) アセスメント及びプランニング

- 保護者が医療機関に対する不信感を抱いており、生徒Aは適切な診療を受けていない。
- 生徒Aの自傷行為は、現在、止んでいるものの、精神的に不安定な状態が続いていた時期があることから、今後も自傷行為の可能性があると想定し、関係機関と連携して当該生徒を見守る必要がある。
- 父親の身体への接触により、生徒Aが苦痛を感じることもあることから、生徒Aの安全確保に向けて、関係機関と連携しながら家庭環境に関する調査を行い、生徒Aが安心・安全に生活できる環境を整え、支援する体制を構築する必要がある。

3 支援の状況（関係者や関係機関とその役割分担）

【子育て支援課】

- SSW及び児童相談所と連携し、母親への面談を実施した。

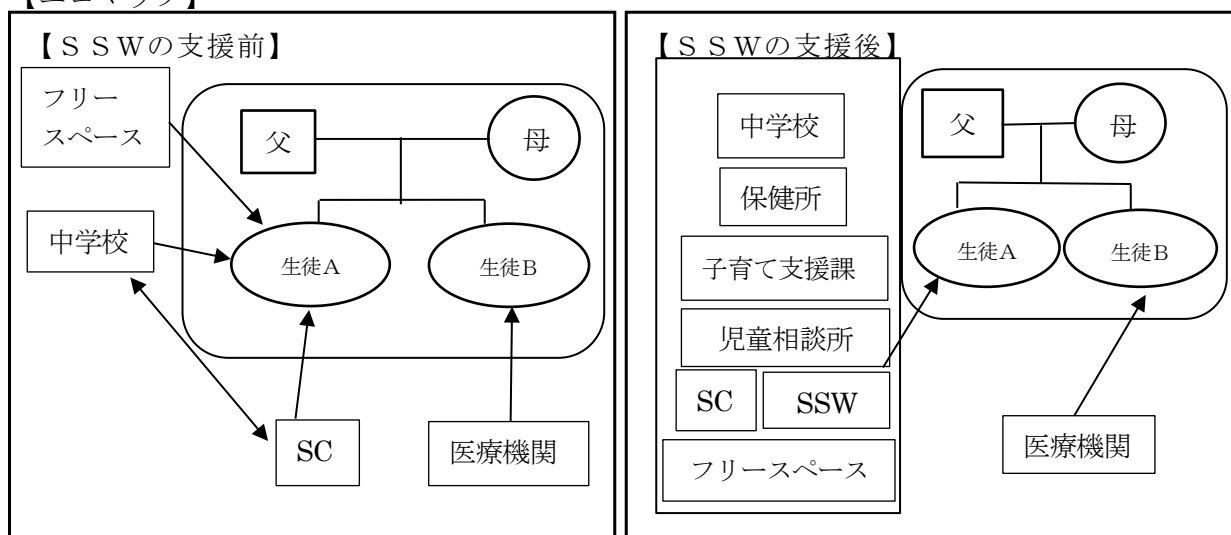
【中学校・SC】

- 生徒Aに対する継続的な安全確認、見守り及び支援を行った。

【SSW】

- 関係機関と連携し、生徒Aに対する継続的な相談支援を実施した。

【エコマップ】



4 支援後の状況（改善が見られたこと、成果など）

- 生徒Aの自傷行為の背景や家庭環境に関する理解を深めたことにより、状況に応じて関係機関につなぐことができた。
- 関係機関で情報を共有することを通して、生徒Aを支援する体制を構築することができた。